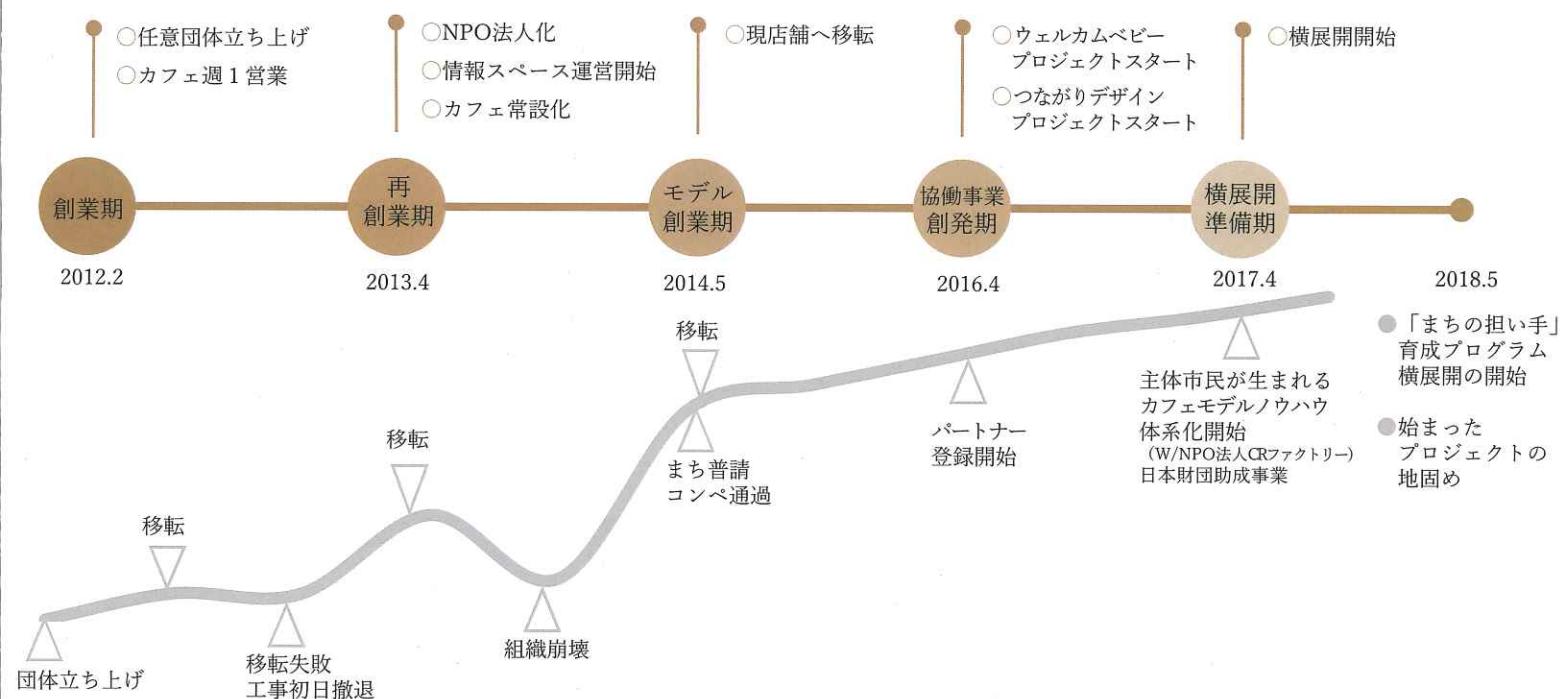


**comachi
plus** **2017**

Annual Report

2017年度もたくさんの方々のお力添えで活動を推進することが出来ました
ありがとうございました

こまちぷらすのこれまで



活動の実態とこれから展開を見据え、スタッフ全員で Vision Mission Slogan Strategy を見直しました。

Vision

—私たちが目指している社会—

子育てが 「まちの力」で 豊かになる社会へ

Mission

—私たちの役割—

孤立した
子育てをなくし
それぞれの
人の力が活きる
機会をつくる

Slogan

—スローガン—

子育てを
「まちで」
プラスに

Strategy

— 目指し方 —

■ 企業や行政、地域の方々と共に
「集まった声」をもとに事業を生み出し、
既存のインフラに埋め込み、次世代に残す。

■ “まちの担い手”を育む場の創造に挑戦し、成長しつづける事業者である。

■ Think global, act local (グローバルに考え、ローカルで行動する)

2017 ハイライト

I 子育て情報の提供

地域こそだてカレンダー



地域こそだてカレンダー
WEBをご覧ください ➤

WEB上で地域の子育て情報を5秒で検索。年間約10,000人利用。パートナーの方々と共に更新方法を変更。紙媒体での配信も追加。配架日の短縮化、地域ごとの情報量のばらつきの補正にも取り組みました。

とつかの子育て応援ルーム とことこ 情報スペース

年間13,973人（月1,164人）来所。
様々な相談に対応。ベビーカーの貸出業務も行い、年間419件（34件/月）の利用がありました。



II こまちカフェの運営



年間約8,700人来店、リフレッシュや休息とともににつながりをサポート。新たなスタッフを数名迎え、ワークシェアをしながらの働き方に工夫を重ねています。地元農家との新たな契約も結び、より感動のある食卓づくりを目指しました。

III 多様性を目指した学びあい事業



でこぼこの会

子どもの発達に心配のある母親の勉強会・情報交換を月1回開催。アズ直子氏を講師に招いた講演会では、100名以上の参加がありました。



えんがわ

おしゃべり会の他、介護施設見学会を行うなど多世代が集う仕組みを作る工夫をしています。



きこえないママ×まちプロジェクト

きこえないママ、きこえるママが集い情報交換をし、まちづくりにどのように貢献できるか考える会。構想から2年かけ、啓発冊子を作成。地域の支援者や施設、行政関連施設等への配布を開始しました。

IV チャレンジ事業

レンタルスペースの貸出

毎日のようにイベントが開催されるため、情報をより整理して届ける必要があると考え、イベントチラシのリニューアルを検討。2018年4月より変更できるよう準備をすすめました。

イオンスタイル東戸塚でのイベント

毎週金曜日、出張イベントを開催。カフェに足を運べない層へのアウトリーチを行いました。



手づくり雑貨マルシェhaco+における手作り品の販売



様々なSNSツールを使って発信することで、首都圏外の手づくり作家の受け入れにもつながるなど、これまでリーチできなかった層の来店にもつながりました。
「SDGs×ものづくり」をテーマに公開ミーティングも実施しました。

V つながり事業

ウェルカムベビープロジェクト

鶴見区での開始に向け準備



- 産院と共にプレバシブレママ向け講座を開催。
- 出産祝いのお届け数は地域の方のサポートにより今年後半は、月約50件に増加。

商店会



- HPのリニューアル。（月間2000人のアクセスから更に上昇中）
- 毎月第3土曜日に区民市を開催。
- 新会員が増えました。



Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION
日本財団の助成のもと、NPO法人CRアクトリーと共に自分のやりたい！！からいつの間にか「まちの担い手」になっていくような「場」の設計を行いました。パートナーの方々の企画運営による映画上映会も実施し、350人の地域の方が来場しました。

つながりデザイン

日本財団の助成のもと、NPO法人CRアクトリーと共に自分のやりたい！！からいつの間にか「まちの担い手」になっていくような「場」の設計を行いました。パートナーの方々の企画運営による映画上映会も実施し、350人の地域の方が来場しました。

VI 提言・啓発

講演やワークショップのファシリテーション等を年間28回、約800人向けに実施。学会や行政関係者、市民団体の方向けにこまちぷらすの活動を伝えました。



2017年度

ご購入いただいた恩送りカード 78枚
頂戴したご寄付 2,151,158円

2018

新たなチャレンジ

2018年度、こまちぷらすの各事業は、新たなステージを迎えます。

障がいの有無や仕事の有無、子どもの有無など、自分自身にラベリングをせずに、当たり前に「まち」や「場」を楽しめる社会には「寛容性」が欠かせないと考え、それぞれ一人一人の問題を、「私達の問題」と捉え、視野の広がりをもたらすような仕掛けをたくさん作っていきます。

他地域への展開やニーズを届ける活動強化

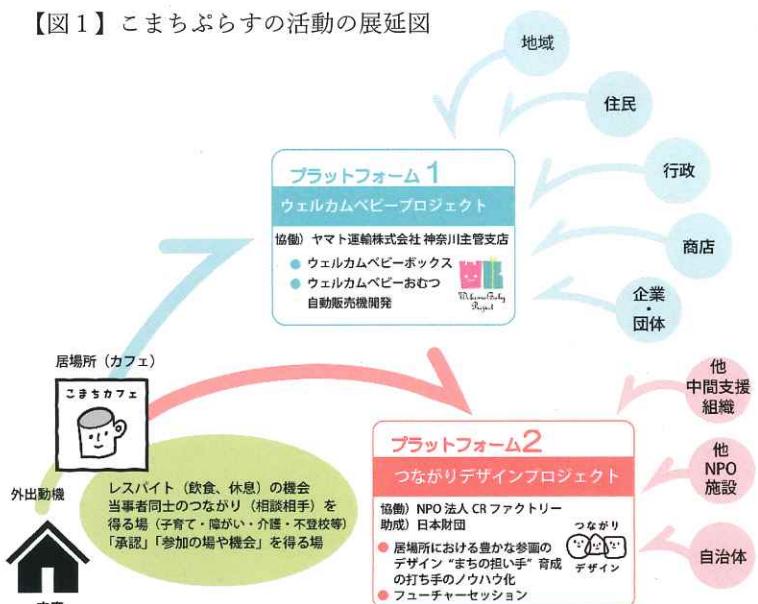
これまで、子育て中の親子に対する居場所（カフェ）で集まった声を原点に、ウェルカムベビープロジェクト（プラットフォーム1）や、つながりデザインプロジェクト（プラットフォーム2）が生まれてきました。【図1参照】今年は、それぞれのプラットフォームの他地域への展開に力を入れていきます。

また、埋もれた声を更に見える化し、地域の方・企業・行政といった社会側へ届ける研修プログラム「FOV+」を開始します。FOV+は、カフェに集まったニーズや「あつたらいいな」を可視化してサービスや制度に取り入れやすいよう体系化したワークショップ形式のプログラムです。今年度はまずその体験会を定期的に実施していきます。

ご関心がある方はこちら

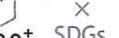
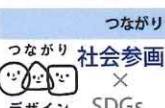


【図1】こまちぶらすの活動の展延図



SDGsを媒介とした協働

【図2】2017年の「SDGs×こまちぶらす」の実践例

		<p>手作り雑貨マルシェ haco +</p> 	<p>12 つまみ食文化 5 ニュートラル環境 達成しよう!</p> 	
目的			隔絶感を覚えやすい特に0～3歳の子育て期に購入等を通じた社会参画の機会を創出することを目的としている。	
実施内容		公開ミーティング「糸と児童労働」など学びを深める場商品企画の会	(SDGsを各ハンドメイド作家が企画として取り入れる場)	
生まれた変化		ハンドメイド作家が、工場へ端切れを調達に行くなど、ものづくりの視点が変化。調達、販売方法、コンセプトなどを、一人一人が見直していくきっかけになった。		
		つながりデザイン		
			<p>つながり デザイン</p> <p>社会参画 × SDGs</p>	
目的			カフェという場を通して、一般市民が一杯のコーヒーを飲む敷居の低さから場に参画し、やりたいことを見つけ、結果的に地域の担い手になっていく循環を生み出すモデルを創り、広げることを目的としている。	
実施内容		ノウハウ体系化 コーディネーター人材育成研修の実施 フューチャーセッションの開催		
生まれた変化		ボランティア登録した人達が30人程のチームを作り難病をテーマにした上映会を実施し、350人を動員。 社会課題を周知した。まちは自分たちの手で創つていくという意識をもった市民が増えている。		

組織基盤の強化

2018年度は、各事業がより一層厚みを増した活動ができるよう、組織基盤の強化にも力を入れます。

具体的には「こまちカフェ」の店長に守家文子を任命し、より迅速かつスムーズな運営を心掛けていきます。また、組織内での会議体のあり方を整理、確認し、月1度のスタッフミーティングでの時間の使い方を工夫すると同時に、事業部門をまたいで情報共有や連携をしっかりと行うために新たに月1度リーダーミーティングを設けます。更に働きやすい環境の整備により一層力を入れていきます。

		こまちカフェ	
こまちカフェ	居場所 × SDGs	4 貧困のない世界を みんなに 8 繁栄のため 世界をともに	
目的	乳幼児期の豊かな発達には、保護者が心身とともに健康であることが大切でありリフレッシュ（適切な休息）及び多様な人ととの対話の場をつくることを目的としている。		
実施内容	飲食の提供、ボランティアの方による見守り おしゃべり会の実施		
生まれた変化	リフレッシュすることで、自身のゆとりが生まれ子どもと楽しく過ごす様子が見られた。また、当事者同士の聚りが（相談相手）を得られた方が少しずつボランティア活動（パートナー登録）を始めるようになった。		
	ウェルカムベビープロジェクト		
	社会循環 × SDGs	9 経済と社会の持続可能な開発 目標 11 住み続けられるまちづくり まちづくりのまち	
目的	未来の担い手である子どもたちの誕生が、家族・街・企業に歓迎される社会になることを目的としている。		
実施内容	官民住民連携で、出産祝いを作り、届けている。		
生まれた変化	出産祝いをもらった人が中に入っている手縫いのお守り（背守り）を「今度は作る側に」と縫いに来ている。関わる企業同士でのコラボも生まれ、オムツ自動販売機など新たなサービス・モノの創出にも繋がっている。		

2017年の取組より、こまちカフェのような小さなお店、日常にあるお店だからこそできるSDGsへの取り組みを広めています。

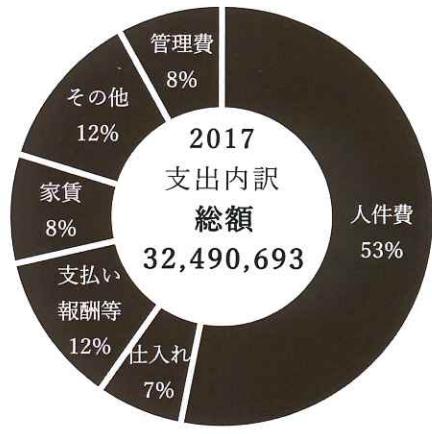
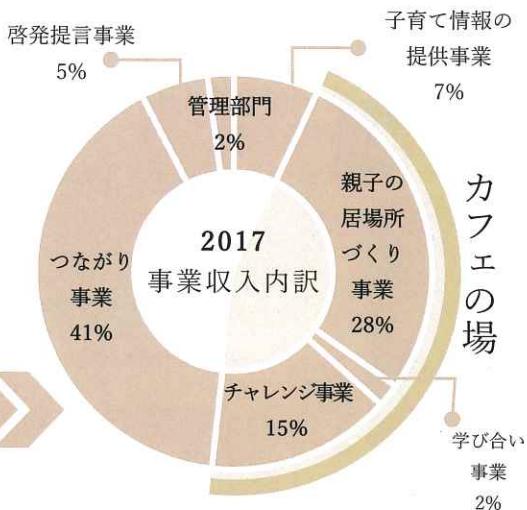
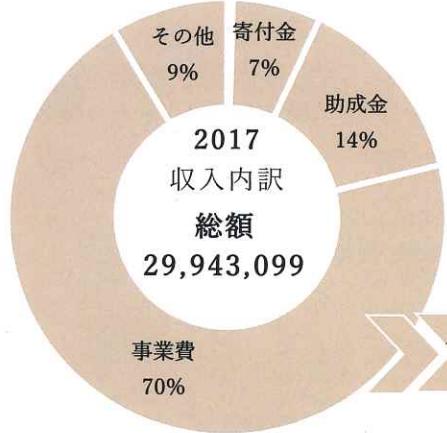
【図2参照】

ランチを食べながらであったり、haco+の買い物の中であったり、日々の暮らしの中で世界に目を向けることで、「私の日々が世界につながっている」ということは、喜びにもなり得ます。また、「誰かの役に立つ」というとき、多くの場合は「相手」が必要ですが、SDGsは一人でも今日からでも始められる、という特徴があります。

この「自己有用感」に着目し、SDGsを媒介としながら、パートナーさん×他のお客さん、haco+作家さん×町工場、パートナーさん×まちの清掃、これを読んでくださっているどこか遠くに住んでいる方×家にいるお母さんお父さん、などいろいろな掛け算をカフェから生み出していきたいと思っています。



収支報告



収入

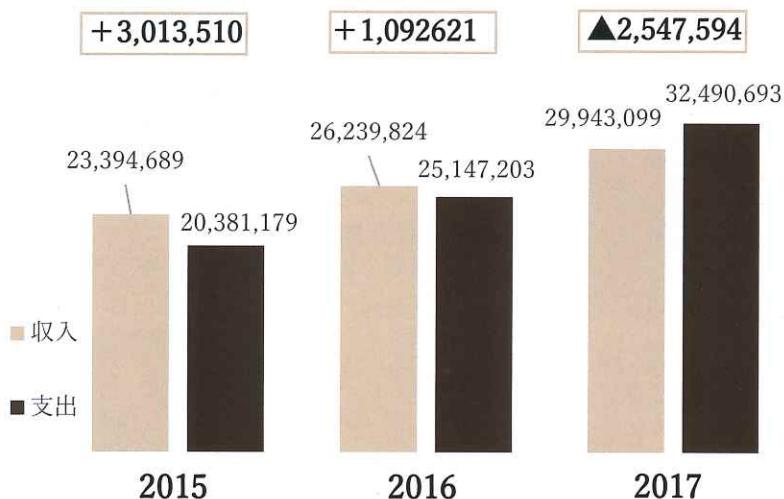
収入のうち事業費が7割を占めます。事業費のうち、約5割がカフェの場から生まれています。残りの4割がウェルカムベビープロジェクトやつながりデザインプロジェクト、調査やコンサルティング等の「つながり事業」です。

支出

人件費が5割と大きな割合を占めています。家賃等の固定支出、カフェの仕入れやhaco+に関わる支払い報酬等の支出がそれぞれ1割ほど占めます。すべての事業を円滑にすすめるための管理費も1割弱占めます。

2015～2017 収入及び支出推移

次期繰越正味財産額：9,908,053



収入は2339万（2015年）⇒2994万（2017年）とこの3ヵ年で約650万増えたものの、支出は2038万（2015年）⇒3249万（2017年）と約1200万と大幅に増えました。この背景にはこの3年で各プロジェクトの人員強化及び組織全体の体制強化に伴う人件費増が事業収入の伸びより大きかったことがあげられます。

これまで居場所事業中心の事業モデル（BtoC）でしたが、今その事業構造を変える過渡期にあります。居場所事業は変わらずコア事業として強化しながら、そこに加えてBtoB（対他地域、企業、行政）の事業のボリュームを増やすことで、利用者負担を増やさずに気持ちの通うあたたかい居場所“まちの手”やイノベーションが生まれ続ける居場所を世の中に増やしていきたいと思います。

イベントチラシにご協賛いただいた皆様（敬称略・順不同）

- イオンスタイル東戸塚 キッズリパブリック東戸塚店
- 株式会社ヘルスアンドヘルス ● 家事代行サービスのCopier（コピエ）

マンスリーサポーターの皆様（※ご承諾を頂いた方のみの掲載となっております）

石黒芳樹様 石黒理抄子様 松本茉莉様

頂戴したご寄付を新規事業開発（haco+×SDGs、ほっとひと息金曜日等）のために使用させて頂きました。この場を借りて深く御礼申し上げます。“子育てが「まちの力」で豊かになる社会”を共に創る「マンスリーサポーター」へのご入会は通年で募集しています。お問合せは fr@comachiplus.org まで。

代表挨拶

こまちカフェに足を運んでくださったたくさんのお客様、パートナーの皆様、ご寄付くださった皆様、会員の皆様、そしてご支援励ましのお言葉をくださったたくさんの皆様、2017年は皆様がいてくださいましたことで躊躇することにも挑戦できました。本当にありがとうございました。豊かな子育ては、気持ちを誰かと共有できる安全な場から始まり、いろんなセクターの方との連携で広がっていくと強く感じます。今後とも孤立することなく、笑いあふれる子育て環境を未来に残していく活動を皆様とご一緒にできたら嬉しいです。